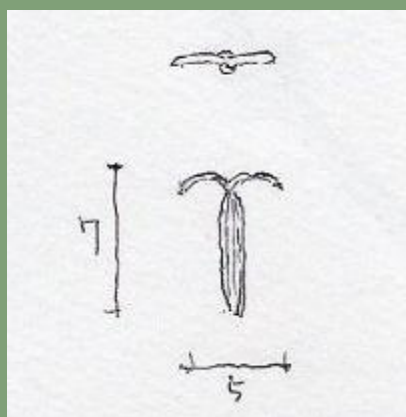
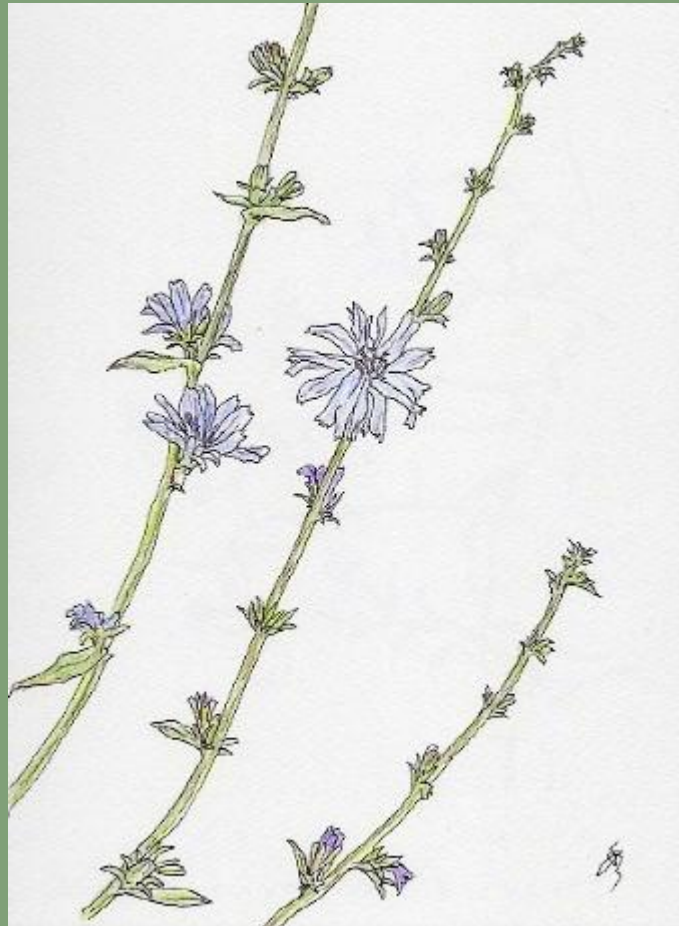


見沼田んぼ・野草スケッチ 「キクニガナ」 菊苦菜 別名 chicory

科名 : キク科キクニガナ属

花言葉 : 待ちぼうけ、質素、儉約、節約、乙女の涙、心の架け橋、  
切ない気持ち、私の為に生きて



雄しべと雌しべ

2012.6.21 曇り

草藪の中にスカイブルー色した小さな花を付けた1Mほどの高さの見慣れない草が目に入りました。藪をかき分けて花を見ると爽やかなブルー色した花の中に雌しべと思われる先端が二つに割れ反り返っていました。不思議な姿をしているなーと思い一枝を折り家に持ち帰りました。図鑑とネットで調べると次のように解説しているサイトを見つけました。

拡大して雄しべを見てみましょう。

チコリの雄しべは5本が合着して集約雄しべとなり雌しべを囲んでいます。中央の白い所が花糸、青い柱状の部分は葯が合着して筒状になっている葯筒です。舌状花のみで筒状花はありません。拡大して雄しべを見てみましょう。チコリの雄しべは5本が合着して集約雄しべとなり雌しべを囲んでいます。中央の白い所が花糸、青い柱状の部分は葯が合着して筒状になっている葯筒です。舌状花のみで筒状花はありません。拡大して雄しべを見てみましょう。チコリの雄しべは5本が合着して集約雄しべとなり雌しべを囲んでいます。中央の白い所が花糸、青い柱状の部分は葯が合着して筒状になっている葯筒です。舌状花のみで筒状花はありません。次第に葯筒から突き出すように雌しべが伸びていきます。雌しべはすでに白い花粉に覆われています。葯筒の内面に花粉が産出され、雌しべはその花粉を付けながら伸び出したのです。しかし雌しべの柱頭は開かず、自家受粉を避けています（雄性先熟）。



さらに伸びた雌しべは2裂して開きますがこの内側が柱頭になっています。

開いたばかりの柱頭にはまだほとんど花粉はついていません。

柱頭が成熟するとくるりと反転して、他の花の花粉を付けて訪れる昆虫から花粉を受け易い体勢になります。

※上記の雄しべ・めしべの写真と解説は、「チコリの花 : はるなつあきふゆ夕菅の庭 : So-netブログ」のサイトより抜粋させて頂きました。不思議な仕組みをしています。

「キクニガナ」	
原産地：	ヨーロッパ 北アメリカ、西アジアに分布。
生育地：	日本へは明治初年に渡来。北海道から九州で栽培されている。水はけのよい肥沃な土地。
茎 丈：	1m～1.5m 独特の苦味
葉：	長楕円形
花期：	6月～8月 朝は濃い青色で、昼になると色が薄くなっていきます。
花・花色：	約3cm 青い花を付ける
種子：	
特徴：	多年草 芽を暗黒下で軟白栽培したものを、主にサラダとして賞味する。根、花、葉を薬草として用い、根は春か秋に掘り取る。煎った根は、コーヒーの代用 昔の人達は時計の代わりに庭に植えていたようです。
名前の由来：	茎や葉を折ると、乳液が出る。それを舐めると苦い味がする、食べられる草花には、菜（な）がつく。
記述は、ウィキペディアと <a href="http://e-yakusou.com">e-yakusou.com</a> を参考にさせて頂きました。 17.8.5	